

令和元年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー			
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト			
主管課	都市政策部 上下水道課	評価責任者	櫻井 進一		
		評価日	令和2年7月3日		
関連課					
目標		浄水施設や水道管路などの水道施設の維持管理を適正に行うとともに、給水量の減少を踏まえた水道施設の更新など事業の見直しを進めます。			
施策目標の実現に向けた取組		<p>(1) 水道水の安定供給 ○給水量の減少を考慮した、福岡浄水場と大井浄水場からの給水区域の見直しや浄水場施設などのダウンサイジングを行います。 ○浄水場の水質管理や施設の適切な維持管理、老朽管や石綿セメント管の更新を通じ、災害に強く安全な水道水の安定供給に努めます。 ○緊急時における飲料水を確保するため、取水施設の耐震化及び老朽化した井戸の水質改善を検討します。</p> <p>(2) 水道事業の経営基盤の強化 ○水道事業の安定化のため、施設の耐震化や計画的な施設更新を実施するとともに、今後の水道水の需要を的確に把握し、適正な料金水準を設定します。</p>			

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策 目 標	指標 1	指標名	石綿セメント管の残延長					
		説明	老朽管（石綿セメント管）を計画的に更新し、残存延長を減らすことにより、耐震率が上がり、安全で安心な水道水の供給を図る。2023年度には、石綿セメント管の残延長5.0kmを目指す。					
		単位	km					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	10.30	9.20	8.10	7.00	6.00	5.00
		実績値	9.50	8.00				
	指標 2	指標名	井戸の更新(新設)箇所数					
		説明	安全な水道水を安定供給するとともに、緊急時の飲料水の供給確保のために必要な水源（電源等）の更新を行う。					
		単位	箇所					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	3	4	5	6	7	7
		実績値	1	3				
	指標 3	指標名						
		説明						
		単位						
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標 4	指標名						
説明								
単位								
成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							
指標 5	指標名							
	説明							
	単位							
成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	1,476,893	1,409,895	1,640,186			
	人件費	84,274	95,884	94,124			
収入	特定財源	1,561,167	1,505,779	1,734,310			
	一般財源	0	0	0			

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	石綿セメント管の残延長	老朽管（石綿セメント管）を耐震性・耐久性のあるダクタイル鋳鉄管等に更新し、安全・快適な水の供給や災害時にも安定的な供給を行うために、既設管の維持管理や施設水準の向上に向け取組んでいる。	老朽管（石綿セメント管）を耐震性・耐久性のあるダクタイル鋳鉄管等に1.5km更新したことにより、事故発生率を低下させ、安全・安心な水道水を安定して供給することができる。	水道管路施設管理・更新事業
取組②	井戸の更新（新設）箇所数	安全な水道水を安定供給する為、水源・浄水場の運転及び設備等への維持管理を行うことにより、災害時にも水道水の供給が可能となる強靱な水道の構築を進めるため、配水池等の耐震性の向上や、水源となる井戸の更新を行う。	令和2年度にかけて福岡第4配水池耐震補強工事を行っている。また、老朽化した福岡第4水源の更新、大井第4水源の電気盤に発電機接続用の改造を行った。これらことから、災害時や大規模停電時においても水量の確保が可能となり、安定した水道水の供給に繋がる。	浄水施設管理・改修事業
取組③				
取組④				
取組⑤				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	市民生活や経済活動に欠かせないライフラインとして、24時間365日、安心して水道水が利用できるよう事業を継続させる必要がある。
順調でない	井戸（水源）の更新については、現位置での更新が調査の結果困難であったため、計画どおりの箇所数に達しておらず順調とは言いがたいが、災害時にも水道水の供給が可能な強靱な水道の構築を進めるため、施設の耐震性の強化に向けた配水池の耐震工事や井戸の更新に取り組み、更に老朽管（石綿セメント管）を耐震性に優れた管に更新を行うことにより、漏水を減らし災害に備えるとともに既設管の維持管理や施設水準を向上させ、安全・快適な水の供給を図り災害に強い街づくりに取り組んでいく必要がある。
行政資源の活用	
適切	
取組の有効性	
有効	
施策の効果	
効果が得られている	

令和元年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		水道事業管理等事務	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー		
予算費目				
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間		昭和38年度～	評価日	令和2年7月3日
個別計画 根拠法令・条例等				
水道法、地方公営企業法、ふじみ野市水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例 ふじみ野市水道事業給水条例				
事務事業の内容	事務事業の目的	生活用水、その他の浄水を市民に供給するため、安心安全かつ安定した水道水の供給体制の確立を目指し、計画的・効率的な事業経営に取り組むことを目的とする。 また、水道事業の健全運営に資するため、事業経営の基礎となる水道料金を適正に収納する。		
	事務事業の経緯	生活用水、その他の浄水を市民に供給するため、安全安心かつ安定した水道水の供給体制の確立を目指し、計画的・効率的な事業経営に取り組むことを目的とする。 事業経営の基礎となる水道料金を適正に収納し、水道事業の健全運営に資する。		
	事務事業の概要	目的達成のため、的確な水道事業の予算編成、決算書作成、執行管理を実施し、適正・適法な会計処理のもと経営の安定を図る。 なお、料金徴収に対する業務については、包括的委託を平成24年度から実施済み。		
	平成31年度の主な取組	ふじみ野市水道事業の目指すべき将来像を定めた「ふじみ野市水道事業ビジョン」、平成30年度に策定した「ふじみ野市水道事業基本計画」及び「ふじみ野市水道事業経営戦略」に基づき、引き続き事業を実施した。 事務事業の目的達成のため、水道事業の予算編成、決算書作成、執行管理を実施し、適正・適法な会計処理のもと経営の安定を図った。また、水道料金徴収等の業務については、包括的業務委託を平成24年度から実施済みであり、適切な業務の指導監督を行い、水道料金徴収率のさらなる向上を図っている。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	3,50	4,00	4,00
		人件費	28,336	33,672	31,912
	再任用職員	従事人数(人)	0,00	0,00	0,00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0,00	0,00	0,00
		人件費	0	0	0
人件費計		28,336	33,672	31,912	
事業費	報酬	0	75	198	
	賃金	0	0	0	
	需用費	353	584	1,402	
	委託料	101,232	103,178	102,971	
	使用料及び賃借料	1,409	1,073	1,786	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	333	333	333	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	12,345	12,014	16,998	
支出合計		144,008	150,929	155,600	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	144,008	150,929	155,600
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	決算額（収益的支出決算総額）		
	説明	適正な事業運営を図るため。		
活動	単位	千円		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	1,764,531	1,723,303	1,751,718
	実績値	1,633,370	1,626,874	
指標 2	指標名	料金徴収率		
	説明	水道料金を公平に負担してもらうため。		
活動	単位	%		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	99.80	99.81	99.82
	実績値	99.90	99.89	
指標 3	指標名	資金保有額		
	説明	適正な事業運営を行うために必要な資金の確保を図るため。		
成果	単位	千円		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	741,774	782,144	720,416
	実績値	999,723	1,004,410	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>事務事業の目的達成のため、水道事業の予算編成、決算書作成、執行管理を実施し、適正・適法な会計処理のもと経営の安定を図った。また、水道料金徴収等の業務については、包括的業務委託を平成24年度から実施済みであり、適切な業務の指導監督を行い、水道料金徴収率のさらなる向上を図っている。</p> <p>令和元年第2回ふじみ野市議会定例会において「ふじみ野市下水道条例及びふじみ野市水道事業給水条例の一部を改正する条例」を提案し、消費税率の引き上げ相当額について、令和元年10月から水道料金及び加入金の改定を実施するための議決を得た。</p> <p>平成30年度の水道事業決算における各指標に基づきPDCAサイクルを用いた進行管理及び他事業体の平均との比較等も行い令和2年度予算編成事務の際には参考とした。</p> <p>水道料金の支払い方法については、収納チャンネルのさらなる強化を図るため、「アプリ収納」のうちPayPay及びLINEPayの取扱いを追加した。</p> <p>使用者の手続きの利便性を高めるため、水道使用開始届等について電子申請の取扱いを開始した。</p> <p>令和元年6月の水道週間に市役所本庁舎ロビーにおいてパネル展を開催し、水道事業の情報提供を行うことで、水道事業の普及啓発を図った。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>水道（事業）は市民生活・企業活動に必要な不可欠である。「ふじみ野市水道ビジョン」、「水道事業基本計画」及び「水道事業経営戦略」に基づき、節水機器の普及の影響による給水収益の減少や水道施設の老朽化による更新需要の増大及び施設の耐震化などの危機管理対策等の課題等に適切に対処し、長期的な視点に立ち、水道事業を展開していく必要がある。</p>
中長期的方向性	
継続	

1. 事務事業の概要

事務事業名		浄水施設管理・改修事業		前年度の方向性 統合	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト			
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー			
予算費目					
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋 昌巳	
事務事業期間			評価日	令和2年7月3日	
個別計画 根拠法令・条例等		水道法、地方公営企業法、ふじみ野市水道事業ビジョン、ふじみ野市水道事業基本計画			
事務事業の内容	事務事業の目的	水源・浄水場の適切な運転・維持管理及び水質の管理を行い、市民に安全な水道水を安定供給することを目的とする。			
	事務事業の経緯	水道利用者を対象に、安全な水道水を安定供給するため、水源・浄水場の運転・維持管理、水道法に基づく水質検査を行う。			
	事務事業の概要	安全な水道水を安定供給する為、原水、浄水の水質検査、水源・浄水場の運転及び設備等の維持管理を行う。 また、災害時にも水道水の供給が可能な強靱な水道の構築を進めるため、配水池等の耐震性の向上、水源となる井戸の更新を行う。			
	平成31年度の主な取組	①運転管理及び施設点検 福岡・大井浄水場及び取水施設における24時間365日の運転管理を行った。また、両浄水場及び取水施設において、計装機器や非常用発電機の点検、整備、修繕等を行った。 ②水質検査 水質検査計画に基づき各浄水場及び水源の他、市内4施設で水質検査を行った。 ③施設の強靱化 令和2年度にかけて福岡第4配水池耐震補強工事を行っている。また、老朽化した福岡第4水源の更新が完了した。更に、大井第4水源の電気盤に発電機接続用の改造を行った。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	3.00	2.50	2.50
		人件費	24,288	21,045	21,045
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計		24,288	21,045	21,045	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	112,084	81,800	103,830	
	委託料	197,542	156,632	183,972	
	使用料及び賃借料	618,278	625,297	639,385	
	工事請負費	52,364	107,493	125,062	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	1,267	285	320	
支出合計		1,005,823	992,552	1,073,614	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	16,000	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	1,005,823	976,552	1,073,614
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標	指標名	井戸の更新(新設)箇所数		
	説明	安全な水道水を安定供給するとともに、緊急時の飲料水の供給確保のため必要な水源（電源等）の更新を行う。		
活動	単位	箇所		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	3	4	5
	実績値	1	3	
指標	指標名	施設月例点検		
	説明	安全な水道水を安定供給する為、水源・浄水場の施設の運転及び設備等の点検を行う。（2施設の月例点検）		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	24	24	24
	実績値	24	24	
指標	指標名	施設年次総合機能点検		
	説明	安全な水道水を安定供給する為、水源・浄水場の施設の運転及び設備等の点検を行う。（2施設の年次点検）		
活動	単位	回		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	2	2	2
	実績値	2	2	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>① 水源となる井戸や浄水場内に配置されているポンプ等の運転操作や維持管理を行うことで、安全な水道水の安定供給を行った。</p> <p>② 大井浄水場、福岡浄水場及び市内10箇所の井戸施設において、井戸水や配水する水の水質検査を実施し、水道法に基づき厚生労働省令により定められている水質基準に適合するよう水の監視、管理を行った。</p> <p>③ 災害時にも水道水の供給が可能な強靱な水道の構築を進めるため、福岡浄水場内にある第4配水池の耐震補強工事を令和元年度から令和2年度にかけて行っている。 令和元年度は、浄水場内配管の切り回し工事と、第4配水池底版に鉄筋を打ち込み補強する工事を実施した。これは、震度6弱に相当する地震時においても配水池の耐震性能が確保され、地震後の原状回復に必要となる修復がひび割れの修復等の軽微なものに留まることを目標に行うものである。</p> <p>また、災害時等に貴重な水源となる市内の井戸のうち福岡第4水源において、地下水を取水するポンプ設備や導水管等の施設を新たに設置した。昭和45年に築造され、老朽化が進んでいた福岡第4水源の更新事業が完了し、水源の水量確保、水質の改善に効果が見込まれる。</p> <p>更に、大井第4水源の電気盤に非常用の発電機を接続することができる改造を実施した。このことにより、県水の断水や市内の水源井戸が稼働できない大規模な停電等において、非常用の発電機を水源に接続することで取水が継続できるようになり、水道原水の不足の軽減に繋がるものである。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民生活や経済活動に欠かせないライフラインとして、24時間365日、安心して利用できるよう、事業を継続させる必要がある。 災害時にも水道水の供給が可能な強靱な水道の構築を進めるためには、水道施設の耐震性を高めていかなければならない。貴重な水道水を貯めておく配水池の中でも、規模の大きい容量を有する配水池等重要
中長期的方向性	構造物の耐震工事は、特に欠かすことができない。 また併せて、適切な維持管理による施設の長寿命化にも取り組んでいく必要がある。
継続	令和2年度には、福岡第4配水池の耐震工事に併せて、配水池内・外壁、天井の劣化補修を実施していく予定である。 更に、災害時等における水道原水の確保の重要性からも、井戸の更新事業も継続が必要である。

1. 事務事業の概要

事務事業名		水道管路施設管理・更新事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト			
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー			
予算費目					
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	高橋昌巳	
事務事業期間			評価日	令和2年7月3日	
個別計画 根拠法令・条例等		水道法、地方公営企業法			
事務事業の内容	事務事業の目的	老朽管（石綿セメント管）を耐震性に優れた管に布設替え（更新）を行うことで、漏水を減らし震災に備えるとともに既設管の維持管理を行うことにより、安全・快適な水の安定供給を図ることを目的とする。			
	事務事業の経緯	石綿セメント管は、摩擦損失係数が小さく、他の材料に比べて安価であったこと等から、水道事業創設（東側地区・昭和37年、西側地区・昭和39年）から昭和50年代前半に布設された。しかし、石綿セメント管はせん断性が弱く、破損率が他の管種よりも高く、老朽化した管渠を水道管の耐震化を計画的に更新事業を実施している。			
	事務事業の概要	老朽管（石綿セメント管）を耐震性・耐久性のあるダクタイル鋳鉄管に更新するため、実施設計、施工管理を行い、安全・快適な水の供給や災害時にも安定的な供給を行うために既設管の維持管理や施設水準の向上に向け取り組んでいる。			
	平成31年度の主な取組	老朽管（石綿セメント管）を耐震性・耐久性のあるダクタイル鋳鉄管等に約1.5km更新した。また管布設替えの際に、経済性を考慮しダウンサイジング（減径）を実施した。（上記の内、約0.7Km分）			

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】		平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	3.00	4.50
		人件費	24,288	37,881
	再任用職員	従事人数(人)	2.00	1.00
		人件費	7,362	3,286
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
	人件費計	31,650	41,167	41,167
事業費	報酬	0	0	0
	賃金	0	0	0
	需用費	89,509	75,299	106,508
	委託料	22,018	15,744	24,446
	使用料及び賃借料	191	185	200
	工事請負費	265,015	227,274	319,871
	負担金、補助及び交付金	0	0	3,300
	扶助費	0	0	0
その他事業費	2,953	2,629	9,604	
	支出合計	411,336	362,298	505,096
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	381,956	349,218
		分担金・負担金	29,380	13,080
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
	一般財源	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	老朽管（石綿セメント管）更新進捗率		
	説明	老朽管（石綿セメント管）を計画的・効果的に更新していくことにより、耐震性を高め、安全で安心な水道水の供給を図る。		
活動	単位	%		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	89.70	90.80	91.90
	実績値	90.50	92.00	
指標 2	指標名	石綿セメント管の残延長		
	説明	老朽管（石綿セメント管）を計画的に更新し、残存延長を減らすことにより、耐震率が上がり、安全で安心な水道水の供給を図る。 2023年度には、石綿セメント管の残延長5.0kmを目指す。		
活動	単位	km		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	10.30	9.20	8.10
	実績値	9.50	8.00	
指標 3	指標名	有収率		
	説明	老朽管（石綿セメント管）を漏水の少ない耐震性・耐久性のある管に更新することにより、有収率の向上を図る。		
活動	単位	%		
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値	95.00	95.00	95.00
	実績値	94.66	93.55	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>石綿セメント管については、創設時より布設したものがほとんどで、当時は、安価で最適な管種として主流をつとめた製品である。 しかしながら、耐震性が低い上に現在では老朽化が進み漏水や破損事故等につながる可能性がある。 この石綿セメント管を布設替えし、耐久性のあるダクタイル鋳鉄管等で更新し（令和元年度においては約1.3kmを更新）管路の耐震化率を高くすることにより、事故割合を低下させ、安心・安全な安定した水道水の供給することが出来る。</p> <p>○石綿セメント管 石綿繊維（アスベスト）、セメント、珪砂を水で練り混ぜたもの。アスベストセメント管、石綿管とも呼ばれる。 長所としては、耐食性・耐電食性が良好であるほか、軽量で加工が良い。また、価格が安価などが挙げられる。一方、強度面や耐衝撃性で劣るなどの短所がある。</p> <p>○残存率（令和元年度） 石綿セメント管残存率（8.0km）÷導・配水管総延長（329.0km）×100≒2.4%</p> <p>○有収水量 料金徴収の対象となった水量及び他会計等から収入のあった水量。</p> <p>○有収率 有収水量を配水量で除したもの。</p>
------------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	老朽管（石綿セメント管）を耐震性に優れた管に布設替え（更新）を行うことで、漏水を減らし震災に備えるとともに既設管の維持管理や施設水準を向上させることにより、安全・快適な水の安定供給を図り災害に強い街づくりを目指すため。
中長期的方向性	
継続	